

IoT活用による巡回稼働削減・生態把握を通じた鳥獣害対策の効率化



概要

- 野生鳥獣による農作物被害の深刻化や、高齢化による狩猟従事者不足という課題に対し、IoT活用による巡回稼働削減・生態把握を通じて、鳥獣害対策の効率化をめざす。
- 2019年4月から木更津市において実証実験を開始しており、被害額の大きいイノシシ対策に特化。
- 赤外線センサーによる檻の進入検知とアラート通知を通じ、捕獲時のみの確認で巡回回数を削減。
- ネットワークカメラによる檻の映像監視と捕獲鳥獣の種類や大きさ等の生態把握による処理稼働の効率化。
- 遠隔操作可能な自動給餌器による給餌稼働の削減や給餌頻度の最適化を通じ、捕獲率の向上をめざす。
- イノシシの検知データ等を蓄積し、地図上にマッピングすることでイノシシの生態把握や効率的な檻の設置を可能に。(生態情報の「見える化」)
- 捕獲効率化の検証に加え、民間の獣肉処理加工場と連携し、ジビエ加工産業の活性化への貢献も視野。

導入効果

- センサーによる検知情報やカメラ画像データにより、イノシシが頻出する地域の把握に貢献。
- 上記で得られた生態情報から檻位置の変更により、11月時点で一頭を捕獲。

○対象品目

水稲	畑作	露地野菜	施設園芸	果樹	茶	花き
酪農	肉用牛	養豚	養鶏	飼料作物		
沿岸漁業	養殖業	沖・遠洋漁業	その他水産業	林業		その他

○該当するニーズ

項目	鳥獣対策
技術ニーズ	ドローン
具体的なニーズの内容	ドローンを利用した、定時巡回や追い払いなどの鳥獣害対策技術

○開発等の段階

開発/実証中	○
モニター販売中	
一般販売中	
その他	

☎連絡先

東日本電信電話(株) 経営企画部
 営業戦略推進室
 TEL:03-5359-3460
 MAIL:info.priindustry-ml@east.ntt.co.jp

情報記載日:2019年11月29日

生態情報の「見える化」



自動給餌による稼働削減



回転することで一定量の餌を押し出す



アラート通知

センサー検知・カメラ監視

電源がない場所でのソーラーパネルと蓄電池の活用

※当初はWi-Fiにて提供。今後、環境に応じて最適なネットワークを選択予定。(ローカルセルラーやIEEE802.11ah等)